

東京 IPO 特別コラム

2016年6月13日 Vol.30

今週から再開する6月IPO相場の行方に注目

出来高が薄くなり頭重い展開が続く株式相場を見て、このところの株式市場は面白くないとお感じになる投資家の皆さんもお見えになるのかも知れませんが、6月15日から再開するIPO相場ではホットな値動きが期待されます。そもそもマザーズ指数は日経平均とは異なる値動きを示しており、出来高が減少し大型銘柄の値動きが悪い中でこそ注目される二律背反の動きを見せます。ここにきてのマザーズ指数は4月18日の年初来高値1230ポイントを頭にして調整傾向にありました。それでも日経平均に比べ、その上昇トレンドはまだ明らかに継続していると見られ、いつでも年初来高値を突破するチャンスがあると見受けられます。そうした局面で1か月以上お休みだったIPOが6月15日から再開され、マザーズ銘柄を中心に取引が開始されます。

最初に登場するのは15日のアトラエ(6194・マザーズ・公開価格5400円)とホープ(6195・マザーズ・公開価格1400円)です。アトラエは成功報酬型求人メディア「Green」やタレントマイニングサービス「TalentBase」、完全審査制AI(人工知能)ビジネスマッチングアプリ「yenta」などの企画運営を行う企業です。リブセンスが類似企業になっていることやAI関連ということで関心と呼びそうです。また、自治体向け財源確保支援サービスを展開するのがホープで地方自治体の財源不足を補う広告モデルの提案などで成長。35歳という若手経営者に率いられている点で注目を集めそうです。

6月16日に登場するのが和歌山市に本社を置く農業総合研究所(3541・マザーズ・公開価格1050円)です。農家の直売所事業を展開しており、業種としては卸業で地味なイメージながら類似企業がオイシックスで農業関連という点で注目を集める可能性があります。今週はもう1社JASDAQに17日に上場するやまみ(2820・公開価格1690円)があります。同社は広島県三原市に本社を置く豆腐・油揚げの大手企業です。予想経常利益は11億円余りで時価総額は106億円以上が見込まれます。上場時のPERは低いと見られますが、産業としては成熟しており、上場後の人気継続は疑問視されます。

この後も21日、AWSホールディングス(3937)、ストライク(6196)、22日ジェイリース(7187)、23日バーチャレクスコンサルティング(6193)とマザーズへのIPOが続きますので注目が怠れません。IPO市場には短期のホットマネーが集まりがちですので、変動リスクも大きく、株価も勢い想定以上の値段がつく可能性があります。短期投資と割り切るか成長性を見抜いて投資アクションを起こすかは皆様の判断に委ねられます。6月IPO相場が皆様の資産運用に実り多い結果をもたらすことを心より祈願致します。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)